

日英 Tech Forum に際しての techUK-JEITA 共同ステートメント（邦訳）

2020年8月

英国の業界団体である techUK と JEITA は先日「日英 Tech Forum」を開催しました。このフォーラムは、日英の企業ならびに官民関係者を集め、両国間の貿易と投資に影響を与える諸課題について議論するものです。今回は現在交渉が進んでいる日英経済連携協定（以下、日英 EPA）について、またコロナ後の時代における両国連携のあり方について、活発な議論がオンライン上で展開されました。

日英 EPA は、両団企業が今後も継続的な事業成長を実現し、イノベーションを生み出していくためにも、経済ルールの基盤整備が必要不可欠であり、日英 EPA の早期（2020年内の）交渉締結を望む声が寄せられました。

私たちは、日英 EPA において、デジタル・通信分野で画期的、先進的な協定となるように、特に以下を考慮されることを望みます。

- ・ データ保護のルールに逸脱せず、国境を越えたデータのやり取りを可能にすること
- ・ データローカライゼーションを強制しないこと
- ・ データへのアクセスについての規制を緩和すること
- ・ 他分野のデータと同様に、金融データの越境流通を促進すること
- ・ WTO の ITA および ITA2 契約に沿って、製品の免税扱いに取り組み、協力して革新的な新技術についても免税範囲を拡大していくこと
- ・ デジタル関税のモラトリアムを確保すること
- ・ 市場アクセスへの条件として、ソースコード、アルゴリズム、そして暗号化技術の開示を要求しないこと
- ・ それぞれの知的財産を守りながら、政府の公開データ（オープンデータ）、テキストデータ、データマイニングを含めた AI の開発をサポートすること
- ・ 両国で協力して、AI やフィンテックなど成長が見込まれる技術に対するルール決めを行うこと
- ・ サイバーセキュリティ対策について、そのリスクを十分に考慮した体制作りを協力して行うこと
- ・ 電子商取引のさらなる浸透・普及を目指すにあたり、敷居を下げるべく協調すること
- ・ 貿易における電子署名の活用やペーパーレス化を更に推し進めること

こうした規定を含めることにより、日本と英国は、デジタル貿易について高い基準を設定し、国際貿易におけるオープンな議論を展開することが出来ると確信しています。デジタル貿易の実現によって、経済の回復、成長、回復力、および互いの市場への投資増加をもたらす重要な機会を提供することになるでしょう。

techUK と JEITA はまた、両国の経済が、特に技術分野において、既に貿易や投資で強い協力関係にあることを認識しています。両国はお互いの経済にとって主要な輸出国であり投資家です。

日英 EPA は、特に技術貿易と投資、研究開発、技術パートナーシップなど、さまざまな技術、また関連分野における新たなコラボレーションのきっかけとなる可能性を秘めています。

こうした機会をとらえて、techUK と JEITA は、補完的な技術分野を探求し、EPA の機会を最適化するワーキンググループの運営を検討し、両国の貿易活動・投資において、より実践的なレベルでの協議を行います。ワーキンググループは、techUK-JEITA 共同イニシアチブである日英 Tech Forum を通じて召集されます。

両国連携については、日本最大の IT 展示会であり Society 5.0 の姿を示す、CEATEC 2020 ONLINE への参加を模索することにより、techUK 会員企業と日本企業との関係をさらに強化することとします。techUK は JEITA と協力して、techUK メンバーがこの技術革新に向けた新たなコラボレーションの機会を活用できるようにします。

今回のフォーラムに関して、議長であるポール・パターソン氏（富士通 NWE リージョン長）は次のように述べています：

英国と日本は、共通の価値観と経済的に相互接続された強固な関係を有するパートナーです。両国は従来からパートナーシップを構築しており、特にテクノロジー分野においてはすでに強いつながりを持っています。日英 EPA によって、両国はさらなる成長と繁栄を推進するための、新たなそして刺激的な機会を得ることになるでしょう。日英 Tech Forum の今後の活動を通じて、日英両国の政府や経済界と協力し、新たな協業分野を開拓していきたいと思えます。

また、techUK の CEO であるジュリアン・デービッド氏は次のように述べています：

テクノロジー分野は、日英協力の成功例の一つとなっています。日英 EPA の締結が近づくにつれ、日英両国は、技術パートナーシップと成長の新たな波を開拓する機会を得ました。しかし我々は、この新しい協定が、技術協力、貿易、投資のさらなる道を開き、イノベーションが誘発されるよう、その環境を確実に整備していかなければなりません。日英 Tech Forum を通じ、両国がさらに協力して、日英 EPA の機会を最大限活用し、共同の取り組みを通じて英国と日本の技術のコラボレーションが広がることを楽しみにしています。

そして、JEITAの常務理事である川上景一氏は次のように述べています:

日英Tech Forumでは、両国の技術セクターが、昨年日本でのG20会議で合意された「信頼性のあるデータの自由な流通 (DFFT)」をさらに前進させるべく、日英EPAにおける電子商取引に関するハイレベルなルールを望んでいることを示しました。日本と英国の技術セクターの関係をさらに強化するために、techUKと協力のうへ、本年10月に開催されるCEATEC 2020 ONLINEを、企業同士による共創、両国のベンチャー企業が未来社会に向けてイノベーションを起こす機会としたいと考えています。

techUKについて:

techUKは、デジタルテクノロジーによって世の中をより良いものとするために、人々や企業、組織を結びつける英国の業界団体です。私たちは、より強力な社会、そしてより持続可能な未来のテクノロジーの可能性を実現するために、ビジネス、政府、利害関係者と協力して取り組んでいます。techUKは専門知識とインサイトを提供することにより、techUK会員メンバー、パートナー、利害関係者が、絶え間なく変化する世界で次に何が起きるかに向けて英国全体をサポートします。

JEITAについて:

電子情報技術産業協会 (JEITA) は日本の電機電子業界の業界団体です。JEITAの目的はIT・エレクトロニクス製品および電子部品の健全な製造、国際貿易、消費を促進し、エレクトロニクスおよび情報技術産業の全体的な発展に貢献すること、そしてそれによって日本の経済発展と文化的繁栄を促進することです。JEITAの使命は、21世紀におけるデジタルネットワーク社会を構築することです。

日英Tech Forumについて:

techUKと電子情報技術産業協会 (JEITA) が主催する日英Tech Forumは、企業が政府や主要な利害関係者とともに貿易、政策、市場成長の観点で議論する機会です。このフォーラムは、技術セクター、貿易関係、および日本と英国の市場機会と課題に影響を与える政策の展望に関心のある企業、政府、その他の利害関係者が参加します。フォーラムでは、英国と日本での成長に影響を与える可能性のある問題やイベントについて話し合い、共通の課題を共有し、両政府と協議するための手段を提供します。さらに、新たな成長の機会を模索して、ビジネスネットワークを拡大するための議論の場ともなります。